

マイクロニクス

39万8千円と超低価格

ハンディ型「MSA338」 スペアナ

携帯電話・無線LAN・

ETC等の高周波領域を得意とする電子計測器メーカー、マイクロニクス

(株)（東京都八王子市）は、地上デジタル放送の地方拡大を目前に、ハンディ型スペクトラムアナライザー「MSA338」の販売を開始した。

MSA338は、地上

デジタル放送、CATV等の設置・保守業務に最適なスペアナで、障害発見用のロギングソフト（PCオプション）を使えば、電界強度計では対応できない使用帯域外のノイズ源の特定や、原因不明の問題点を解決できる超低価格のスペアナとして期待されている。

■主な特徴

・超低価格39・8万円
ハンディ型スペアナが他社同クラスの半値以下。

・小型・軽量1・8kg
162(W)×70(H)×260(D)mmと小型で、重さはバッテリーを含めてもわずか1・8kg。出張先や屋外での使用に

大変便利で使いやすいサイズ。

・測定周波数帯域50kHz～3・3GHz
VHF、ミッドバンド、スーパーハイバンド、UHF（デジタル放送）、BS-11F帯、CS-1F帯の周波数に対応。
・バッテリー動作15

0分

オフションのバッテリーをフル充電すると、おおよそ150分使用することができ、屋外での使用に大変便利。

・大型ベンチタイプに引けをとらない性能
PLLシンセサイザー方式により、高安定な周波数軸を保証する。中心周波数設定分解能は100kHz。また、平均雑音レベルはマイナスイ0dBmと広いダイナミックレンジを確保し、基準レベルは1dBステップで



ハンディ型スペアナ
MSA338

設定できる。

・豊富な機能
チャネルパワー・隣接チャネル漏洩電力・占有周波数帯域幅測定、演算機能ではMAX HOLDやOVER WRITE、その他本体に測定データを保存することもできる。

きる。

・AUTOチューニング
AUTO TUNE機能を使うと、3・3GHz帯域内の最大レベルのスペクトルに中心周波数を合わせ、かつ最適な基準レベル、分解能帯域幅、ビデオ帯域幅および掃引

時間が設定される。未知信号の測定るとき大変便利。

・オートレンジ動作
設定された周波数スペクトルをもとに、分解能帯域幅、ビデオ帯域幅および掃引時間を自動的に設定

可能。分解能帯域幅、ビデオ帯域幅または掃引時間のいずれかだけをオートレンジ動作にすることもできる。

・画面のハードコピー
オフションのプリンターを接続し、ボタン一つで画面がそのまま出力される。

・PC画面で高分解能表示
オフションのソフトウェアを使うことにより、パソコン画面上に横軸1000点の高分解能でスペクトル波形を表示できる。